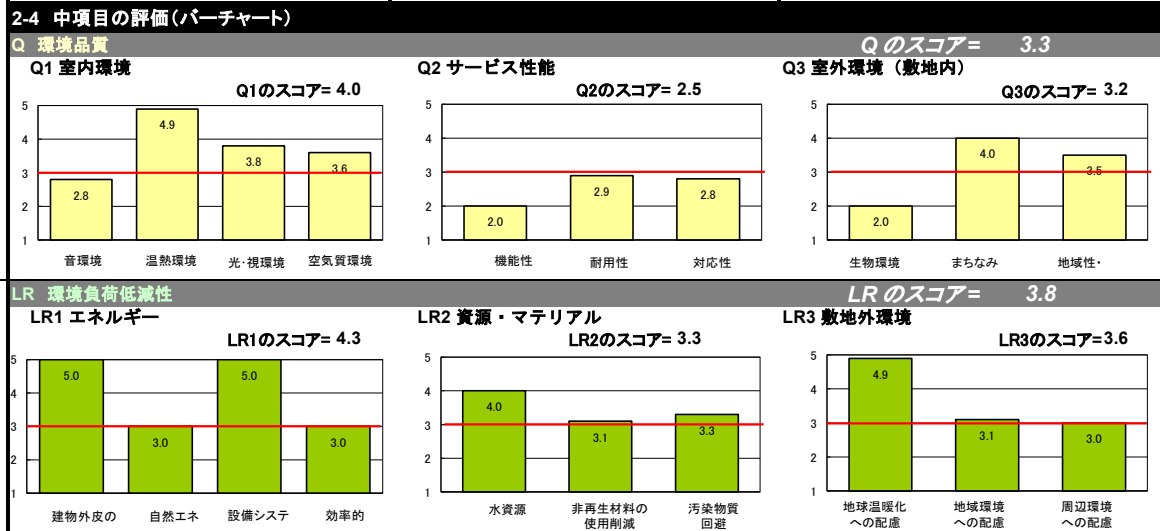
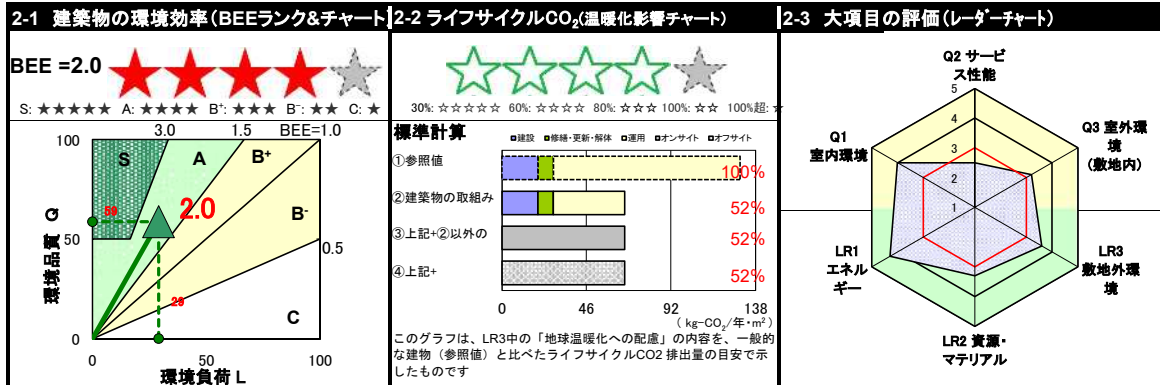


CASBEE® あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	尾西住宅建築工事(1工区)	階数	地上8階
建設地	一宮市東五郎字大平通の一角、三倉字大平の一角、東五郎字尾崎の一角	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	104 人
気候区分	6地域	年間使用時間	303,680 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年10月 予定	評価の実施日	2025年1月17日
敷地面積	1,472 m ²	作成者	狭間 敦司
建築面積	498 m ²	確認日	2025年1月17日
延床面積	2,958 m ²	確認者	坂口 博文



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.9	2.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	15.9 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	2.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
	植栽にハナノキを採用

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
尾西住宅建築工事(1工区)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質															
Q1 室内環境															
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															
1.2 遮音															
1 開口部遮音性能															
2 界壁遮音性能															
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															
1.3 吸音															
2 温熱環境															
2.1 室温制御															
1 室温															
2 外皮性能															
3 ゾーン別制御性															
2.2 湿度制御															
2.3 空調方式															
3 光・視環境															
3.1 昼光利用															
1 昼光率															
2 方位別開口															
3 昼光利用設備															
3.2 グレア対策															
1 昼光制御															
3.3 照度															
3.4 照明制御															
4 空気質環境															
4.1 発生源対策															
1 化学汚染物質															
4.2 換気															
1 換気量															
2 自然換気性能															
3 取り入れ外気への配慮															
4.3 運用管理															
1 CO ₂ の監視															
2 喫煙の制御															
Q2 サービス性能															
1 機能性															
1.1 機能性・使いやすさ															
1 広さ・収納性															
2 高度情報通信設備対応															
3 バリアフリー計画															
1.2 心理性・快適性															
1 広さ感・景観 (天井高)															
2 リフレッシュスペース															
3 内装計画															
1.3 維持管理															
1 維持管理に配慮した設計															
2 維持管理用機能の確保															
2 耐用性・信頼性															
2.1 耐震・免震・制震・制振															
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															
2 免震・制震・制振性能															
2.2 部品・部材の耐用年数															
1 躯体材料の耐用年数															
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															
6 主要設備機器の更新必要間隔															
2.4 信頼性															
1 空調・換気設備															
2 給排水・衛生設備															
3 電気設備															
4 機械・配管支持方法															
5 通信・情報設備															

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.1	1.00		-	-	
1 空調配管の更新性	②	サヤ管ヘッダー方式を採用	-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30		-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	既存住棟の将来建替え及び周辺環境を考慮し建物配置、植栽配置を行いました	-	4.0	0.40		-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.5	0.30		-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	植栽にハナノキを採用	-	4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.8
LR1 エネルギー					0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.8	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.78	3.0	5.0	0.33		-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-		-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30		-	-	3.3
1 水資源保護			0.1	4.0	0.15		-	-	4.0
1.1 節水		節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	4.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用システムを導入	3.0	4.0	1.00		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.1	0.63		-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生骨材の路盤材 あいくる材	3.0	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	3.0	4.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆建材の採用	3.0	5.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.5	0.68		-	-	
1 消火剤			-	2.0	0.50		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50		-	-	
3 冷媒			3.0	-	-		-	-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率52%	-	4.9	0.33		-	-	4.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.6	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	-	-		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.33		-	-	
3 交通負荷抑制	独自	介護用駐車場の設置	-	5.0	0.33		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.33		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
尾西住宅建築工事(1工区)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10	
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:15.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	植栽にハナノキを採用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 尾西住宅建築工事(1工区)

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 建物建設による周辺環境への影響が少なくなるよう計画しました。また、日照条件等を考慮し建物位置を南側としました
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 仕上材、下地材とも全てF☆☆☆☆材としました。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 各住戸はTEL、TV、非常通報装置を設置しました
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑地帯をなるべく多く設置しました。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱等級4及び一次エネルギー消費率100%以下としました。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 土間下、基礎下にはRC40を使用しました。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場部分は透水性舗装としました。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。